

明日に架ける橋

2026年度 進路だより 第5号
兵庫県立明石高等学校進路指導部
2026年9月1日発行

大学入試が間近になってきました

今日から新学期のスタートです。3年生は、夏季休業中も毎日のように補習で登校し、学校で自習をする姿が見られ、また教科の質問や進路相談に来る人も多くいました。前号で「今年の3年生は赤本の貸し出し率が低い」と憂いを述べましたが、夏季休業中は多くの人が赤本を借り、返却の際に話を聞くと「赤本の勉強を通して、力が付いていくのを実感しました」と言ってくれました。これから先がとても楽しみです。1・2年生も、すぐにやってくる進路実現に向けて、じっくり勉強した夏季休業になったことと思います。

7月16日に発行した「進路だより第4号」で今年度の受験スケジュールをお知らせしましたが、間もなく2027年度大学入学共通テストの一斉出願を行います。「進路の手びき」で詳しく記していますが、今年度の共通テストの概要を簡単にまとめますので、3年生はもちろん、1・2年次生も今のうちから内容を十分に理解して、対策を取ってください。

共通テスト 出題教科・科目

〔国語〕 200点 90分

近代以降の文章3問110点、古文1問45点、漢文1問45点

〔英語〕 リーディング 100点 80分、リスニング 100点 30分

*ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語での受験も可能(出願時に申請)

〔地歴・公民〕 1科目 100点 60分、2科目 200点 120分

下記の6科目から1～2科目を選択

(b)「地理総合・地理探究」「歴史総合・日本史探究」「歴史総合・世界史探究」「公共・倫理」「公共・政治経済」

(a)「地理総合・歴史総合・公共」より2つを選んで解答する。(50点×2)

*bから2科目を選択する場合、「公共・倫理」と「公共・政治経済」を選択することはできない。

*bから1科目、aの「地理総合・歴史総合・公共」を選択する場合、aで選択するものと同一名称を含む科目をbから選択できない

(例) bで「歴史総合・日本史探究」→ aは「地理総合・公共」で受験

〔数学〕 ①100点 70分、②100点 70分

①下記の2科目から1科目を選択

「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅰ」

②「数学Ⅱ・数学B・数学C」 数学Bおよび数学Cについては、4項目のうち3項目を選んで解答する。

〔理科〕 1科目 100点 60分、2科目 200点 120分

下記の5科目から1～2科目を選択

「物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」

*「物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎」は4つの基礎科目のうち2つを選んで解答する。(50点×2)

〔情報〕 100点 60分

「情報Ⅰ」

共通テストには、1年次からの準備・勉強が必要です。各教科に関して不明の点があれば、早急に教科担当の先生まで尋ねてください。

共通テストの必要性

2027年1月16・17日に実施される今年度の共通テストですが、どのような場合に受験が必要なのでしょうか。

〔国公立大学の一般選抜〕

国公立大学の一般選抜は、原則「共通テスト」と各大学独自の「個別試験」(いわゆる2次試験)の合計得点で合否を判定します。ほとんどの大学が「前期日程」と「後期日程」に定員を振り分けて個別試験を実施する「分離分割方式」を採用しています。これに加えて一部の公立大学では「中期日程」の試験も行われるため、最大3校の国公立大学に出願す

ることが可能です。必要教科・科目は大学によって異なりますので、早期からの十分な調査・確認・対策が必要です。

〔国公立大学の学校推薦型選抜〕

国公立大学の学校推薦型選抜は、原則公募制推薦で行われます。9月25日の校内推薦会議で選考されれば、出願が可能です。昨年度の入試では、国公立大学の96.6%が学校推薦型選抜を実施しています。このうち、共通テストを課す大学は約65%です。推薦といえども3分の2の大学で、共通テストが必要です。必要な教科・科目も大学によって異なりますが、合否判定の方法は、書類審査(調査書、推薦書など)+小論文+面接+共通テストの成績などによって、総合的に判断されます。出願段階で、例えば3年生1学期までの学習成績の状況(評定平均値)が5段階で4.2以上が出願条件など、多くの大学では高い評価が必要ですので、1年次から授業・考査に真剣に取り組み、面接でアピールできるような特別活動の実績を残すことも重要です。

明石高校の多くの先輩が、この学校推薦型選抜方式で国公立大学に進んでいます。先を見据えて、1・2年次生は今を頑張りましょう！

〔私立大学の一般選抜〕

私立大学の「総合型選抜」「学校推薦型選抜」が間もなく始まります。受験生の心理として「早く進路を決めたい」は必ず起こり得ると思いますが、第1志望を決めたならば揺らぐことなく、その大学に向かってください。第1志望校の入試に「総合型選抜」「学校推薦型選抜」があれば、受験機会は増やせばよいと思います。しかし、いわゆる滑り止めとしてランクを下げた大学の「学校推薦型選抜」を受験すれば、その大学に落ちてしまうという例は非常に多いです。

併願可の「学校推薦型選抜」に合格すれば、ほとんどが年内には入学金20～30万円程度を納めなければなりません。その「入学金がもったいないからここでいいや」「行く大学ができたから2月まで必死に勉強しなくても大丈夫」などの、心理が知らず知らず働いて、2月の第1志望校「一般選抜」受験に力が入らず、残念な結果に終わってしまいます。将来後悔しないために、最後まで第1志望校に挑みましょう。

私立大学の「一般選抜」は複数回チャンスがあります。受験日程の作戦を立てることが大切です。(受験日程の作戦の立て方は、2学期終盤の進路だよりでお伝えします)これと並行して活用してほしいのが、「私立大学の共通テスト利用選抜」です。昨年度の入試で「共通テスト利用選抜」を実施した私立大学は520校で、8割以上の大学が行っています。私立大学共通テスト利用選抜のメリットは、①受験料が安い、②出願するだけで合否判定してくれる(個別試験を受験しなくてもよい)、ということです。今年の卒業生の中にも、「共通テスト利用入試」で合格し、進学した人が多くいました。志望大学の受験機会を増やすためにも、共通テストを受験しましょう。この場合の共通テスト必要教科は、大学や受験型によって様々ですが、「一般選抜」と同じ2～3教科が大半です。事前によく調べて、早期対策を取りましょう。

閑話 前号で、戦火に散った明石中学校の先輩方の話を書きましたが、「楠本中田記念樹を見てきました。」と何人かの生徒が言ってくれました。今年も、終戦記念日の8月15日近くには、特にNHKで戦争を考える番組やドラマが多く放送されていました。

明石公園内の県立図書館前に「明石空襲の碑」が建てられているのをご存じですか。終戦目前の1945年6月9日の空襲で、明石公園に避難してきた市民をアメリカの爆撃機が襲い、明石公園内だけで、270名もの命が奪われました。剛ノ池は死体で埋まり、人々の血で真っ赤になったと言われています。この空襲を含め、1945年1月から7月に6回の空襲を明石は受け、1500名の貴い命が失われ、市街地の6割が焼失しました。この犠牲者の慰霊碑が1985年に建てられました。犠牲者の中には、川崎航空機明石工場で勤労働員として従事していた中学生や女学生も多く含まれています。

明石文化博物館には、明石空襲を伝える常設展示があります。明石高校放送部の皆さんの制作による戦争体験の再現ドラマもありますので、ぜひこの展示を通して郷土の悲しい歴史を知り、平和を考える機会にしてほしいと思います。(責o)



明石空襲の碑(明石公園内)